
しろい空。

土田かこつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しろい空。

【コード】

N18230

【作者名】

土田かこつ

【あらすじ】

ぬけるような青空でもものしかかる曇天でもない、ただただ白い霧の空。

そんな奇妙な空に憧れる少年と、彼の目を空からそらせようとする女の子の小さな抵抗のお話。

体がすうつと気体になって、吸い込まれてしまいそうな白い空だった。

ぬけるような青空でも、のしかかる灰の雲でもない。

粒の見えない霧雨で視界がかすむ。地面も空も白くぼやけて境めをなくしていた。

たぶん、いつもの場所にいつものやつがいるはずだ。

こんな空の日には。

そこは小高い丘の上、一軒家が並ぶ急な坂道の先にある原っぱだった。

マンションがたつという話はあったが、結局草が刈られたただけのまま放置されていた。

霧雨にかすむ緑の絨毯のを踏み締めていくと、一部色が違っているのが見える。

そこだけシルエットが切り取られていた。

果たして。

いつもの場所にいつものやつはいた。

手も足も投げ出して、大の字に寝そべっている。

顔をまつすぐ空に向けて、口も目もうつすぐ開いたまま。

足音には気付いているだろうに目もくれやしない。

死体みたい。

人形というには生々しい。

グロテスク、な空気はもちろんないけれど。
死体みたい、と思った。

まだきれいな。
できたての。

だから、口をついで出たのはこんな言葉だった。

「死にたいわけ？」

返事はない。

あからさまな質問に言ったほうが恥ずかしくなって、
やっと同じように空を見上げた。

白い。

まぶしい。

見えない。

何も。

にじむ。

しみる。

目が痛い。

逃げるように目をつむると瞼の裏で白が点滅した。
目尻から水がこぼれていく。

やつはまだまっすぐに空を見ている。

ねえ、何を見ているの。

ほの暗いにまぶしい、奇妙な色の空。

ねえ、あんた盲になりたいの。

視界を全部塗りつぶす白。

そのままじゃ目がつぶれるよ。

反応のないやつにわけもなく焦れた。
何とかあの白から目をそらさせたくて、でもいらついているのを気付かれるのはしゃくで、何かないかと言葉を探した。

無関心を装う。

出来るだけそっけなく。

少しだけ馬鹿にしたように。

「ねえそこ、犬のフンあったよ」

表情のなかったやつの眉毛がぴくりと動く。

そのままたっぷり3秒。

唐突にかばつと体を起こした。

「…まじで？」

やつの目に私が映る。やつと。

いらついていた自分とやつの間抜け顔がおかしくなって、私は盛大に笑ってやった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1823o/>

しろい空。

2010年10月15日20時17分発行